

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 富永 優夏 年齢 14 歳 職業・学校名 矢吹中学校

私が小学校3年生の時に東日本大震災が起  
 こった。その後もしばしば、テレビで流れる映  
 像が流れていて、原発が爆発するほどたくさ  
 んの恐怖で毎日、毎日おびえて眠れない日が  
 続きました。そんな時、他県や外国からの支  
 援や復興のおかげで私たちが福島県民はここま  
 で乗り越えることができたんだと心から感謝  
 しています。そして、支えてあげましてくれ  
 た家族、先生方のおかげだと思います。

私の将来の夢は学校の先生です。私も子供  
 の心の支えになれるような教師を目指したい  
 です。

震災から約5年が経とうとしています。今  
 は原発の問題が1番のかべとなっているので  
 はないでしよりが、これから将来どういう福  
 島県になっているのか不安と期待でいっぱい  
 です。そして、この大震災の体験、家族の大  
 切さ、1日1日の大切さを忘れないで生活して  
 いきたいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 中野綾子 年齢 14 歳 職業・学校名 矢吹中学校

私は、小学3年生で、東日本大震災を経験しました。地震が起きた2011年3月11日は、いつものように朝、家を出るときに母親に、「いってきます。」といっていました。

といて、学校に登校しました。そして、午後2時46分、大きな揺れが福島県を襲いました。私の住んでいる矢吹町は、内陸なので、津波の被害を受けることはありませんでしたが、太平洋側の海沿いの地域では、とても大きな津波の被害を受け、たくさんの人々が亡くなりました。また、絶対に忘れることのない、福島第一原発の事故がありました。放射能汚染は、たくさんの人々を今も苦しめています。農産物や海産物の風評被害などもです。

また、今も避難をし、家に帰れない人もたくさんいます。私は、この大きな出来事を後世に伝えるべきだと思います。そして、震災前の人々が安心して、笑って暮らせるような福島県に早く戻してほしいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大林 見知 希 年齢 14 歳 職業・学校名 矢吹中学校

2011年3月11日14時46分18秒  
 ぼくは3年生でクラスで帰りの会を始める時  
 でした。その日ぼくは日直だ、たのび日付を  
 変えようとしてキーリングを持った瞬間、とても大  
 きな地震がきました。ぼくはイスのひつとんえ  
 の下にかくれ身の安全を確保しました。しか  
 し大きく左右する揺れでつとんえがぼくとと  
 とんえの間に落ちてきました。この地震はすごい長く  
 感じました。揺れがおさまると放送が流れ  
 みんなでいっせいに校庭へ逃げました。避  
 難訓練ではあんなと先生に、走るなとかし、  
 かり整列しろとか言われていたのにみんなお  
 もいっせいに走り、校庭へ逃げました。ぼくは  
 必死すぎでキーリングを持ちながら逃げま  
 ちました。このような緊急事態にはぼくも五歩頭  
 がま、自分のキーリングをおくことまででき  
 ませんでした。これが震災の体験談です。福島  
 県にはまだ放射能の心配がありまだまだ復興は  
 できていないと思います。これからみんな  
 じか力を合わせて復興をがんばりたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 仲島 康平 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中

僕は、東日本大震災の時は、すごい大きい地震で、立っていませんでした。僕はまだ、小学生だったのだから、学校にいきました。先生のけいたいが鳴って、分からなかつた。すごく大きい地震がきました。お母さんがおかえにきて、家に行きました。すると家の中が、すごくきたかくなっていました。たくさんのお物がわかっていました。家の中に入る足はきかなくなりました。かたづけが1日かかっておわりませんでした。家族やおじいちゃん、おばあちゃんとかたづけをしました。今はもう震災がながったかのうにすべて、震災前のようになっていますが、福島県全体で見ると、震災前のようには、まだ復興してないと思います。できるだけ早く復興して、震災前のようが福島にしてほしいなあ僕は思いました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 高橋 勇輔

年齢 13 歳

職業・学校名 矢吹中学校

東日本大震災では多くの犠牲者がいました。  
津波などで大切な人や家をなくした人だっ  
たたくさんいます。福島県では原子力発電所の  
事故があり大変でした。僕は地震の時小学校  
にいました。帰ろうとしたとたん地震がきま  
りました。すぐ机の下に隠れましたがとても揺れ  
が激しく机から放り出されそうになりまし  
た。外に避難をしようとプールの水が校庭に流  
れていました。とても怖かったです。家に帰  
ると家の中は大変なことになっていました。  
家具があちこちにちらばっていて足の踏み場  
もありませんでした。かまにはひびが色々な  
場所にありました。前の日までは普通に生活  
していたのに急に地震がきて大変なことにな  
りました。また、これからは人の繋がりを、  
温かみを大切に、復興に向けて強く生きてい  
きたいと思います。

(20文字 × 20行)

お名前

人の繋がりを、温かみを大切に、復興に向けて強く生きてい

たい

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤 仁妻 年齢 14 歳 職業・学校名 失吹中

3	月	11	日	14	時	26	分	、	お	た	泉	陸	木	志	村	檜	木	中	
襲	わ	れ	た	。	お	た	し	は	小	学	3	年	生	だ	。	た	。	長	い
時	間	の	悪	魔	に	襲	わ	れ	た	。	揺	れ	が	収	ま	り	、	外	に
避	難	し	た	。	そ	こ	に	は	驚	愕	の	光	景	が	広	が	。	て	い
た	。	ア	ス	フ	ア	ル	ト	に	窓	が	ラ	ス	が	飛	ひ	散	り	、	ア
ー	ル	の	水	が	溢	れ	て	い	た	。	父	が	迎	え	に	来	て	帰	宅
し	た	。	テ	レ	ビ	を	っ	け	る	て	第	一	原	祭	、	津	波	の	
ニ	ー	ス	シ	カ	カ	。	て	い	な	か	。	た	。						
お	た	し	は	、	一	生	に	一	度	し	か	で	走	り	な	い	か	そ	し
木	な	い	。	あ	の	恐	怖	を	ま	た	経	験	す	る	の	は	嫌	だ	。
し	か	し	、	こ	の	経	験	を	知	ら	な	い	人	、	自	分	の	子	孫
達	に	語	り	継	い	て	い	き	たい	。	ま	た	、	自	然	災	害	は	
い	つ	起	こ	る	か	わ	か	ら	な	い	し	、	起	こ	る	の	は	任	方
な	い	。	た	だ	、	い	つ	起	こ	っ	て	そ	す	ぐ	に	避	難	で	き
る	よ	う	に	備	え	て	お	く	こ	と	が	大	切	だ	と	思	う	。	こ
の	恐	怖	で	も	あ	り	重	な	経	験	を	後	世	に	伝	え	て	い	り
を	た	い	で	す	。														

## 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 小坂 裕 義 年 齢 17 歳 職 業 ・ 学 校 名 矢 吹 中 学 木 交

私	は	、	電	災	の	時	、	小	学	校	3	年	生	で	、	校	舎	に				
い	ま	し	た	。	初	め	た	時	は	、	前	々	か	い	何	度						
も	地	震	は	あ	、	た	の	云	、	ま	た	す	ぐ	に	か	さ	ま	る				
た	ら	し	と	思	、	こ	の	云	、	あ	ま	り	あ	わ	て	ま	せ	ん				
で	し	た	。	だ	け	ど	、	急	に	ゆ	れ	が	強	く	な	。	こ	の	云			
、	ま	い	、	回	り	の	人	た	ら	も	あ	わ	て	こ	、	私	は	し				
た	い	に	、	怖	く	な	り	ま	し	た	。	外	に	避	難	し	て	み				
る	と	あ	ま	り	被	害	が	見	ら	れ	な	く	て	、	安	心	し	ま				
し	た	。	け	れ	ど	、	家	に	帰	り	て	中	を	見	る	と	、	家	の	中	の	家
具	が	散	ら	ん	し	て	い	こ	、	こ	の	云	、	く	り	し	ま	し	た	。	そ	
の	云	、	テ	レ	ビ	を	く	け	る	こ	、	津	波	被	害	が	あ	り	、	た		
ら	し	所	で	、	家	か	く	れ	れ	の	行	方	不	明	者	か	た	し	さ	ん	い	
る	こ	の	云	、	状	況	か	ゆ	か	っ	て	、	矢	吹	町	は	大	き	な	被		
害	が	出	て	い	な	い	人	た	な	と	思	い	ま	し	た	。	今	は	、			
被	害	が	大	き	か	っ	た	地	域	を	、	復	興	に	向	け	て	、	い			
る	人	た	取	り	組	み	を	し	て	い	て	、	矢	吹	町	も	、	そ	の			
に	取	り	組	ん	で	い	る	の	で	、	私	も	ホ	ウ	ン	フ	ィ	ア	の			
こ	の	云	に	参	加	し	た	い	と	思	い	ま	す	。								

氏名 鈴木 尚司

年齢 14 歳

職業・学校名 知吹中学校

東日本大震災—その時私は小3で、立てない程の揺れに、地面に手をついて、収まるのを待ちました。幸い私は外にいて、周囲に何もなかったのでケがはしませんでした。少し歩くと瓦が落ち、塀が道端に崩れていました。頭が真っ白になった私は余震が続く中、見慣れた道が、異次元の世界に思え、怖さでやたらと歩き廻り、家までの道を見失ってしまいました。母が探し回りに変わり果てた家に戻れまじたが、いすぐに公民館に避難をすることにになりました。ここからどうなるのが私は不安でした。なんとか住めると判断した両親は、今出来ること、やらねばならぬ事を行動に務し、私に生きる姿を示してくれました。

今の私が望むのは、災害に強い国づくりです。亡くなった方達の思いを胸に、努力する歩みを止めてほなりません。復興は人任せでなく、自分達で築き上げていくものだと思ひます。平凡な日常が、ありがたいと感じる私は、生かされている今を大切にしたいです。



氏名 佐藤 未華瑠 年齢 14 歳 職業・学校名 矢吹中学校

私は、小学3年生の時に東日本大震災とい  
う矢吹町では震度6強の地震が起きました。  
震災の時、児童は全員無事に避難するところか  
できましたが、まわりを見ると建物がこわれ  
ているところがあり、けがをしている人  
もいました。私は、もと大きいゆれの地震  
が起きた地域や、津波にあつた地域などはも  
ととひどく、無事に津波から避難できなかつ  
た人たちがたくさんいるんだろうなと思いま  
した。亡くなつた人たちは、かわいそうだな  
と思いました。  
でも、今では、建物が新しく建てられてい  
るものが多いいと思います。私はそれを見て  
見て、前よりも良い村、町、都市へ向か  
ている人だなと思いました。しかし、今でも  
震災の時のゴミやくずれた建物も少なくない  
と思います。私はそれを見て、今でも震災の  
時の津波や地震などは一人も忘れていない  
人はいないと思いました。今私達にできることは  
笑顔でいることと助け合うことだと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 野木 舞美 年齢 14 歳 職業・学校名 矢吹中学校

私は、この東日本大震災を体験して、怖  
 いと感じました。震災の時、私は小学校三年  
 生で、地震が起きた時は、教室にいました。  
 先生と全校生徒は、校庭に避難してしま  
 った。しばらくして、家の人を迎えに家へ帰  
 りました。家へ帰りました。家までは、道路に  
 水が入っていたため、歩いて帰りました。  
 家に帰った途中、あたりを見まわすと、  
 家の壁が壊れていたり、道路には、石がころ  
 ころ落ちていたりして、怖かったです。家へ戻り、家の  
 中に入ると、家の中は、水が溢れて、水も  
 出なかったため、急いで水を買いに行きまし  
 ました。水を買っている人は、たくさんいました。  
 水を買い終ると、家族がそろって、みんな無事  
 で良かったです。その日の夜は何かあるか分  
 かりませんでした。兄が起きてくれたので、安  
 心しました。  
 このように、この体験を通して、水の大切さ、  
 家族のありがたみを実感しました。少しづつ  
 復興へ近づいていく中で、良かったです。

氏名 小室太陽 年齢 14歳 職業・学校名 矢吹中学校

私は小学3年生の時に東日本大震災を経験  
しました。その頃はまだ小さかったのですが、教  
室がゆれた時は、何がおきているか分からな  
く、おぼろげに、何かがおきていた感じがして  
きました。その時は帰りの会をやって  
いて、後ろにおいてあったランドセルなど、  
物がいっぱいおち、バケツの水がこぼれたり  
他のクラスでは、ガラスが割れ、ささった人  
もいました。校庭にひびが入ると、学校には  
ひびが入り、おぼろげに壊れそうでした。家に帰  
れば、おぼろげに壊れた家ではありませんで  
した。震災から何日かたつて学校へ行つた時  
は、みんなに会えてうれしかったです。  
又、震災から5年がたつた今では、学校も  
新しくなり、何の不自由のない生活をおくら  
せています。でも東日本を体験くことを忘れず、  
未来に伝えていき、おぼろげにも早く、被災地  
の復興が進めばいいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鈴木 貴士 年齢 14歳 職業・学校名 矢吹中学校

「グーッ」という音が聞こえ、私たちの教室が揺  
 れた。地震だ、とその時思った。例えもずい  
 ぶん揺れでも地震はやはり緊長する。揺れは  
 1つもより大きい。天井が外れ板が揺れてい  
 た。頭に落ちそうだった。避難をして揺れが  
 治まってきたから家に帰ると家中がめちゃくちゃ  
 になっていた。本棚、茶碗などがもうめちゃ  
 くちゃに倒れ込んでいた。自然に涙が出てい  
 った。

福島県は地震をけてなく原発に付る被害で  
 復興が遅れている。汚染された土も今年から  
 やりと除去してくれている。しかし、残され  
 た土地にはまた、埋められた汚土が残されて  
 いる。それでも、自分の生まれたこの土地に  
 住みたいと願って新しい土地に家を建ててい  
 る避難者が町内にいることも知っている。

2020年度のオリンピックが開かれるま  
 だには、世界各国の人々に元の状態に戻、た  
 福島県を自慢できる自然・環境に取り戻して  
 ほしいと願っている。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

東日本大震災が起こる前までの僕は、琵琶  
 訓練を真剣にやっていた。なぜなら、  
 自分達が住む地域などで、大きな地震、火災  
 が起こるとは、思っていなかったからである。  
 しかし、三月十一日、自分の誕生日が近くな  
 り、気分を喪くしていたところに、大きな地震  
 が起こった。これまででの地震とはは別やとの  
 にならなほど大きな地震におおき引いて、教  
 室の中にいる人たち、急いで、全員机の末  
 底まで入り、身を守った。窓ガラスが落ちて割れ  
 音の水そうの水がゆれる音が聞こえてきた。  
 その音を聞くと、すごい大きな地震だというの  
 がわかる。少しゆれがおさまると、  
 全員外へ逃げた。そして、先生方の話を聞いて  
 してから、家へ帰った。下校中に地面がゆれて  
 いて少し変な気分だった。家に入ると、家の中  
 の物がほとんどおぼろげに壊れていた。祖母が二階  
 から下りてきて、少し安心した。その翌日、会社  
 の方へ避難する準備が整ったと、知らせが来  
 ている。気がくと、自分を泣かされた。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 松谷和翔

年齢 11歳

職業

学校名 知吹中学校

ぼくが小学生の時に経験した災害です。  
 最初は、小さい揺れがきてその時は何だ地  
 震かと思っでいると学校の移金全体が揺れて  
 みんな机の下に入りました。正直もう死んだ  
 っと思っていたけど揺れは止まっけけかも無  
 く無事でした。

親が御に来水家に帰ると、キッチンへの食器  
 が全部落ちて割れていて、水も使えなくて、  
 テレビをつけると津波の映像が流れていきま  
 す。くわがったです。

もしも今、四年たっでいるけど全く復興し  
 ないない地域もあると思っからできるだけ早  
 く復興して、もどおりになればいいと思っ  
 ています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 小坂 萌 年齢 13 歳 職業・学校名 矢沢中学校

東日本大震災がおきたとき、私はまじ教室  
 にいました。突然揺れが襲ってきて、その揺  
 れの時間おたごと共に、激しさを増していき  
 ました。揺れはいつにもおさまらぬ、かな  
 りの時間揺れ続けていました。当時の私は、  
 何がおこっているのかよく理解できませんでした  
 した。軽いパニック状態になってしまいました。  
 今この家は、家族はどうなっているのかと思  
 っているから、とぶ事であることを願っています。

東日本大震災では、大きな被害が出て、福  
 島もたくさん被害が出ました。一日でもほ  
 やく被害を受けた県などは復興へと進んでいる  
 ことを私も願っています。





「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 中山 聖 年齢 13歳 職業・学校名 矢吹中

大震災の体験をしたとき、自分は小学3年生のときでした。まだ幼く、はいめはなにが起きたのかが分かりませんでした。なにが起きたのかが分かったころには不安と心配で泣き出してしまいました。

学校内で帰りの準備をして、帰りの学活の終わりごろでした。放送とほぼ同時に地震がきました。急いで机の下に隠れていました。とと走ったり、机と教室内を左右にふらふらしてしまいました。そのときが一番こわ

かったかもしれません。地震が収まり、外へとひたすらをしました。しかし、校庭のナイターが地震で斜めになっ てしまい、いつ倒れてもおかしくない状態でした。外はとても寒く不安と心配の中で、親の迎えを待ちました。その迎えを待つ時間がとても不安に感じました。迎えに来てくれた時は心から安心しました。

この震災では、家族の大切さと、避難訓練の大切さが分かりました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 吉田 莉里花 年齢 14 歳 職業 学校名 矢吹中学校

私は東日本大震災がおきた当時、小学3年生  
 でした。まだ小さか、たので何が起きてい  
 るのかさっぱり分かりませんでした。地震が  
 おさま、て家の中を見てもみると、家具がぐち  
 ゃぐちやにな、ていました。私はその時、「地  
 震、てすごいんだと思いました。道を通ると  
 マンホールがとびでていたり、ひびが割れて  
 いる箇所がたくさんありました。

今、東日本大震災から5年たちました。地  
 震でこわれた場所をし、かりなおすことを行  
 な、ているので、福島県の未来は地震がおき  
 る前ぐらいになると思っています。私は将来どこ  
 に住むか分かりませんが、福島県がいい県に  
 な、て住みやすい町や市にするようかんぱっ  
 てほしいです。(復興を)

## 「東日本大震災の体験談と復興への願い」応募用紙

## 匿名希望

私は、五年前に体験した東日本大震災を振り返り、怖い経験もしたけど、地震で学んだこともあります。それは、一人一人の命の大切さと復興へ向けての町や村の人達の取り組みの絆です。この地震を、たくさんの方が津波に巻き込まれてくた、たとえ言うことが出来ませんでした。私達の地域は津波などはなかったけど、他の県や地域ではとても被害にあつたのを知り、びっくりしたし、津波でなくなった人達や家族が犠牲になり私も心が痛むほどひどい残酷な結果になってしまったことを今でも心に残っています。五年過ぎた今でも、さまざまな人達が協力し、復興に向けて取り組んでいる姿を見て、私に出来る事を考えて見ました。私達が今出来る事は、自らボランティアに参加し、次の世代の人達にもこの東日本大震災を忘れてはいけなことを伝えていくことだと思います。地震でくた、た人達や被害を受けて今でも復興に向けて頑張っている人達をこれからも応援していきたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 柏木 レナ 年齢 14 歳 職業・学校名 矢吹中学校

2	0	1	1	年	3	月	1	1	日	、	あの	東	日	本	大	震	災			
が	起	こ	っ	て	か	ら	、	も	う	5	年	が	経	と	う	と	し	て	い	
ま	す	。	私	が	こ	の	大	震	災	を	経	験	し	た	の	は	、	小	学	
校	3	年	生	の	と	き	で	し	た	。	帰	り	会	を	し	て	い	る	と	
地	震	が	起	こ	り	ま	し	た	。	揺	れ	は	だ	ん	だ	ん	大	き	く	
な	っ	て	い	き	ま	し	た	。	放	送	が	鳴	り	、	机	の	下	に	も	
ぐ	り	ま	し	た	が	、	机	は	1	m	以	上	も	右	左	に	動	き	ま	
し	た	。	と	て	も	こ	わ	か	、	た	で	す	。							
そ	の	日	か	ら	は	、	水	が	出	な	か	、	た	り	、	ガ	ソ	リ	リ	
ン	が	足	り	な	く	な	っ	た	り	し	て	困	り	ま	し	た	。	余	震	
が	何	度	も	き	ま	し	た	。	家	の	壁	に	も	、	た	く	さ	ん	の	
き	れ	つ	が	入	っ	て	い	ま	す	。	毎	日	、	油	断	で	き	ず	に	
過	ご	し	て	い	ま	し	た	。												
し	か	し	、	最	近	は	あ	の	震	災	を	思	い	出	す	こ	と	も		
少	な	く	な	り	ま	し	た	。	し	か	し	、	ま	だ	避	難	生	活	を	
し	て	い	る	人	や	、	立	ち	直	れ	て	い	な	い	人	も	い	ま	す	。
私	た	ち	は	、	そ	の	こ	と	を	忘	れ	て	は	い	け	な	い	人	を	
と	、	こ	の	作	文	を	書	い	て	改	め	て	思	い	ま	し	た	。		

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

大震災が起きたとき、私はまだ学校にいました。  
 た。すぐに机の下に隠れ、地震の揺れが少し  
 おさまった瞬間にみんなで教室に逃げました。  
 あのときの怖さは今でも覚えています。さま  
 ざまな不安を持ちながらその夜から過ごしま  
 した。日が過ぎていくにつれ放射線などの心配  
 が起こり、その中でも復興に向けて動きだし  
 ていたのはよく覚えております。あの日から数  
 年が過ぎた今、沢山の人々からの支援などが  
 あり、ここまで復興してこれたのだからと思いま  
 す。ここからの未来に向けて今よりもさまざま  
 な復興を通して地震が起こる前のような東  
 北がもどってこれると良いなと思います。

匿名希望

僕が東日本大震災に遭ったのは、小学3年生の時でした。体験したことがない震えで、とてもこわかったです。学校から家に帰る途中の町の景色も忘れられません。店の窓が全部割れて、家も1階がなげなされたこともありました。さ、お、自分の家は倒れることはありませんでしたが、家中にひびが入って、まじった。2本からどうなるのだろ、と不安でしたがありませんでした。

でも、今日本はここまで復興しました。世界の人の助けもあり、少しづつ元の町に戻りつつあると思います。今度は僕たちが大人になっ、これからこの日本を復興し、前より、日本にしたい、と思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 二瓶修介

年齢 14歳

職業・学校名 矢吹中学校

僕は小学4年生になりました。直前に東日本大震災  
 を経験しました。今までにない大きなゆれで  
 とてもおどりました。急いで外に出るとプ  
 ールの水が流れ出てきていて、グラウンドは  
 少々ガチャガチャになってしまいました。  
 向かえが来たので家に帰ると、瓦がたぐせ  
 ん落ちていて、足の踏み場もない状況でした。  
 しばらくしてテレビをみてみると、津波でた  
 くさんの家や人が流れているとこが映し  
 だされていて、テレビの前で立ちつしてし  
 まった事を今でもおぼえています。

何度も何度も流れたA.CのCMも僕には震  
 災の思い出の一つです。良いCMなのですが  
 その時のをみると、  
 「震災の時のCMだ。」  
 といふ気分になってしまいます。

僕らの地域はまだ完全ではないですが、  
 とても復興しているのので、津波放射能など  
 と戦っている人々も早くふりさとに帰って笑  
 顔になっしてほしいです。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 安藤 翔

年齢 14 歳

職業・学校名 矢吹中学校

先生の地震警法がなつた。その時僕は目直を  
 していて、すぐ席に戻り、机の下に隠れた。  
 みんなが笑つたその次の瞬間教室に震れがお  
 そつた。教室の中に響く絶叫、棚の上から植  
 木鉢が落ちた。石油ストーブの上のお湯が  
 こぼれた。天井の水は毛糸、校舎と校庭に  
 ひびが入つた。校庭に出て30分たつたころ  
 くらいから、体育館に移動した。その後家に  
 帰ると奇屋には人未ながつた。その後原釜の  
 爆発などいろいろあり、あつたから4年たつ  
 た。今思うととても怖い出来事だつたと思ひ  
 ます。僕はこれからもこの出来事を次の世代  
 にも伝えて100年たつても忘れる事のない  
 出来事にして行きたいと思ひておきます。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 永野 大輝 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中学校

体	で	ゆ	れ	を	感	じ	た	時	僕	は	口	つ	も	の	よ	う	に	か	る
い	ゆ	れ	で	お	さ	ま	る	だ	ら	う	と	い	う	軽	い	気	持	ち	で
机	の	下	に	も	ぐ	り	ま	し	た	。	少	し	た	つ	と	地	震	は	お
さ	ま	る	と	こ	ろ	か	、	よ	り	い	、	そ	う	大	き	く	な	り	ま
し	た	。	時	計	は	下	に	お	ち	て	、	そ	の	時	育	て	て	い	た
ホ	ウ	セ	ン	カ	も	ド	ミ	ノ	の	よ	う	に	次	々	と	た	お	れ	て
い	き	と	し	も	怖	く	な	、	つ	き	ま	し	た	。	校	庭	に	避	難
し	て	、	ま	わ	り	を	見	る	と	イ	タ	ー	が	傾	い	て	い	る	
の	に	気	が	つ	き	ま	し	た	。	そ	の	後	、	座	っ	て	お	か	え
を	待	っ	て	い	る	時	に	余	震	が	何	回	も	き	ま	し	た	。	ま
た	あ	ん	な	こ	と	に	な	る	ん	じ	ゃ	な	い	か	と	思	い	と	て
も	心	配	で	し	た	。	家	に	帰	っ	て	き	た	ら	、	物	が	た	お
れ	て	い	て	ぐ	じ	ゃ	ぐ	じ	ゃ	に	な	っ	て	い	て	、	こ	の	先
と	う	な	っ	て	し	ま	う	の	だ	ら	う	と	と	し	て	も	不	安	に
り	ま	し	た	。															
矢	吹	は	た	ま	た	ま	津	波	が	あ	り	ま	せ	ん	で	し	た	が	
丘	あ	き	市	な	ど	は	津	波	が	あ	っ	た	の	で	、	も	っ	と	大
変	だ	っ	た	と	思	い	ま	す	。	僕	は	毎	年	の	よ	う	に	夏	に
釣	り	に	行	っ	て	い	た	の	で	1	日	で	も	早	く	復	興	し	て
ほ	し	い	で	す	。														

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 藤根 ぽのか 年齢 14 歳 職業・学校名 矢吹中学校

私は、小学3年生のときに東日本大震災を  
 経験しました。いつもの帰り道は、地面が割  
 れてでこぼこで、ガロツク瓶がくずれて景色  
 が一変していました。家に帰って、夕方くら  
 いまで車の中ですごし、その後は、牛川屋の  
 とよりの小さな部屋に泊まりました。それか  
 らは、毎日のように、小さなゆれが起こって  
 緊急地震速報の音がとっても心臓に響か、たで  
 す。  
 父は、牛の出荷停止が長引いて、いつも、  
 不安そうでした。手伝おうと思っても、原発  
 事故があったため、とうぶん、外に出られま  
 せんでした。家の中は、特に被害はなかった  
 のですが、また大きな震水がきて、くずれる  
 かもしれないといって1ヶ月くらい小さな小  
 屋で生活していました。  
 浜通りの方は、もし、安全に住めるように  
 なっても人が戻らなかつたら過疎化してしま  
 うと思います。復興するのなら、震災前よりも  
 すばらしい県になってほしいです。

## 匿名希望

窓が割れた。友達の前からは血がでた。  
先生はドアをあけ大きな声でさけんとる。  
みんながさめさめしてよく聞こえない。けど  
、とてもにわかった。僕たちは、帰る準備を  
しといた。みんな校庭に避難して死者はでな  
かった。この東日本大震災を振り返り思った  
ことが二つある。一つは、避難訓練の大切さ  
だ。休み時間にサイレンがなり避難訓練が始  
まると、僕はたの意をつきめんどくさいと  
りよく不機嫌になつた。ニュースでは、よく  
避難訓練をやっておいたおかげで津波がまた  
学校も助かったというのがやっていた。いま  
思うととても大事なことだと思う。だから東  
日本大震災をたえず、避難訓練を真剣にうけ  
てほしい。二つ目は、人との関わりが目で見  
れたことだ。仮設住宅が家の近くにできた。  
みんな悲しい経験をした人だなと思ったら、  
みんなが笑っていた。やはり最後は人。人との  
助け合いが大変。僕にとって東日本大震災  
は嫌な経験でもあり良い経験でもあった。

匿名希望

2011年3月11日、当時小学三年生だ  
 った私は、今までにないほど大きなゆれを感  
 じました。東日本大震災でした。私はとても  
 怖く、これからどうなってしまうのだろう。  
 家は大丈夫だろうか。なにかさまざま不安が  
 うかんできて涙を出しそうになりました。け  
 れど、そのとき一緒にいた友達に「大丈夫だ  
 よ。」と言ってもらい、心が落ち着きました。  
 あれからもう4年がたち、私も中学2年生  
 となりました。町の様子も震災前とあまり変  
 わらなくなってきました。復興も進んできて  
 いると思います。いつまでも復興とは言っ  
 てはいられません。なので、ちょっとずつでも  
 『復興』から『発展』へ変わっていかねばよ  
 いと思います。これから福島県一丸とあつ  
 て頑張っていましょーう！

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 小椋 未香子 年齢 14歳 職業・学校名 矢吹中学校

私は東日本大震災を体験して、学んだことが沢山あります。地震の揺れや、放射線の恐れ、水の不足、食料の乏しさなどです。震災が起きたから一週間以上頭が洗えずにいました。震災以降、初めて頭を洗った時、とても気持ちよかったです。そのことを覚えています。

放射線により外でも遊ぶことができなくなりました。「外で遊びたい」という気持ちはあるのに、「放射線のせいでも遊ぶまい」という、とてつもない気持ちでした。正直に辛かったです。

この体験を通して、今後、放射性物質が飛ぶようなことはないようにしてほしいです。放射線で福島県産のものは食べられず、外で遊ぶことができなくなりました。もう、こんな思いはしたくないし、これから産まれてくる沢山の子ども達にもこんな思いをしてほしくないです。

ぜひ皆さんにこの体験を後生に伝えていきたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 宮平 環奈 年齢 13 歳 職業・学校名 正栄中学校

731

3月11日、この日は東日本大震災があった日。  
当時私は小学3年生で、小学3年生の終わりに  
に震災が訪れました。震災がおもひ前には、  
帰りの会をしていて、いきなり訪れました。  
急に揺れ始めて、どんどん揺れていって、おかしな  
机の下にもぐり、よくしるうにしていきました。  
私も机の下にもぐりていて机の揺れがおさま  
るまでりうかぶたです。私はこんなこと初め  
でほとんどにびりしました。揺れがおさま  
ったり、全校生が校庭へおなをし、先生が  
つきまると、気を付けて帰りようになると言っ  
た日は私は車で帰りました。私が最もおど  
ろいたのは町の道路のコンクリートがみびが  
割れていたりなど、自分の家がおかしな  
に壊れていたりして、かたづけが大変でした。  
でも、今生までいけてきて、町が元どおりに  
なり、家もかたづけ、家に住めるので今は  
安心してくらせます。私の町は大丈夫ですが  
つなみに来た地域もまよりので海が遠く行く  
ほとんどよか、たと思えます。





「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 蛭田 和佳奈 年齢 14 歳 職業・学校名 矢吹中学校

震災があった日、私は小学校三年生で、その日  
 もいつもと同じく友達といっしょにあそんでいま  
 してました。一輪車であそんでいました。その時  
 に急に地震が来て、先生も友達もみんなおどろ  
 いて地面にふせていました。ずごく大きな音とゆ  
 れが来て、みんな泣いてしまったり、家族の心配  
 をしていました。私も家がどうなっているか、家  
 族は大丈夫かが心配になりました。泣きそうにな  
 りました。父があかえに来てくれましたが、道路に  
 ヒビが入っていたり、マンホールがとび出していた  
 り、とても通りにくくなっていました。家は窓ガラ  
 スが割れていたり、屋根がボロボロでした。大  
 変なことになっていました。その日はしょうがな  
 く、この家に泊めさせてもらいました。その時テ  
 レビでは津波などの放送がしてあり、とてもこわ  
 いと思いました。多くの命を奪った大地震。それ  
 に対する対策などに気を配りたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 本田千穂 年齢 14歳 職業・学校名 伏吹中学校

東日本大震災を経験した時、私は小学三年  
 生でした。三月十一日、いつも通り帰りの解  
 学活をやっていた私はいつたに何が起きたの  
 がわかりませんでした。校舎が大きく激しく  
 揺れ、パニック状態でした。けれどもそんな時  
 机の下に隠れていたとなりの子が、「大丈夫  
 だよ」と声をかけてくれました。た。たかこ  
 とだ。たのに、私は思ち着すと安心感を取り  
 戻すことができました。声をかけてくれたこ  
 とは、当時の私にとって支えでした。今まで  
 にでもお礼を言いたいです。  
 まだまだ震災の偏跡が消えたとは言えませ  
 んが、これから声をかけ合い、お互いに支  
 え合いながら、福島がより良い方向へ前進し  
 ていけるよう、頑張りたいと思います。経験  
 も心に最えられた私たちなりに、どこまでも  
 前に進め子はずです。これも信じて復興も心  
 援したいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大竹さら 年齢 13歳 職業・学校名 女吹中学校

東日本大震災当時、私は小学3年生まで帰りの学活をしていました。まだ8〜9才だ、
私達は、急に激しく揺れだした事に驚き、あわてました。と、下に机の下にかくれようもの
の、棚から物が倒れてきたり、キャスター付の椅子は机の方に向か、て動いて来る。
アールの水は校庭へ流れ出て、駐車場まで川あふるに悩んでいました。こわくて泣く子
、泣きながらさめる子、周りをまよる子、
して、学校の変わり：た様には驚く子供は、みんな落ち着きがありませんでした。それは、家に帰、てからも同じで、たくさんの割れた食器、落ちた置き物や本、そしてトイレが開か
ない。水道も電気も止まり、大変でした。
今でもまだ、震災の跡は残っています。福島がここからどうなるのかは分かりません。ですが、浜通り地区で特に被害の多か、た所に住んでいた人達が、笑顔になろうと、少しずつ、新しい福島を作っています。から良いなと思います。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

3月11日、あの時私達は帰りの準備を  
 していました。友達と話している人、席に座  
 っている人、いろいろな人がいました。いつもと  
 変わらない時を過ごしていましたが突然大き  
 な地震が来ました。私達は机の下にもぐって  
 身を守り、揺れがおさまるのを待ちました。  
 揺れがおさまり、校庭に避難しました。プー  
 ルの水は校庭まで流れ、トイレはなかなか  
 なり、校庭や駐車場には<sup>まわ</sup>人が入、ていま  
 した、大きな揺れがきた後も<sup>ま</sup>震が何度かあり  
 ました。恐怖と不安で涙が止まりませんでした  
 ました。校庭で寒い中家族の迎えが来るのを待ち  
 ました。地震が来てから何分かた、た時、お  
 母さんが迎えに来ました。会った瞬間、これ  
 までの恐怖と不安が安心に変りきました。そ  
 の後家へ帰りテレビで他の地域の映像を見ま  
 した。津波が家などが流され、いろいろな被害  
 があつた、ていました。私はこんな経験もう  
 度としたくない。起こってほしくなれないと思  
 いました。

匿名希望

僕は、東日本大震災の時は、小学校で、帰りの会をやっていました。地震が来た時は、とてもびっくりました。バケツに入っていた水がこぼれたりして、とてもびっくりました。外に避難すると、金曜日だったため、シューズをはいていない人や、ジャンパーなどを着ていなくて、寒がっている人もいました。そういう人を見ると、とてもかわいそうに思えました。震災後は、原発の事故などで、僕の好きなサッカーもできなくなってしまいました。とても悔しかったです。これが、復興に向けて、がんばり続ける早くもどしてもいい。できることが少しずつ少しずつ、なおしてもいいたいと僕は思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

僕	ら	は	ま	た	小	学	生	の	と	そ	の	こ	と	を	じ	た	と	
て	つ	も	好	く	強	い	中	れ	を	体	験	し	ま	し	た	東	日	本
大	震	災	の	前	日	な	ど	け	平	和	を	し	た	が	平	和	が	
電	屋	と	い	う	言	葉	が	壊	れ	始	め	ま	し	た	僕	は	地	震
が	あ	た	と	き	す	こ	く	こ	わ	め	た	で	す	し	他			
の	人	も	こ	わ	め	た	と	思	い	ま	す	中	れ	が	お	こ	ま	
た	と	を	け	少	し	安	心	し	ま	し	た	が	ま	た	中	れ	る	
が	も	し	れ	な	い	と	思	い	な	か	ら	学	校	の	外	に	ひ	ま
し	た	外	に	ひ	た	後	矢	生	方	の	指	示	を	し	た	り	し	
て	全	員	の	人	を	さ	る	こ	と	外	に	ま	し	た	こ	ん		
な	ら	い	過	去	が	あ	り	ま	し	た	が	し	か	し	今	は		
平	和	に	暮	ら	す	と	外	に	ま	す	地	震	が	あ				
た	年	の	原	災	が	壊	れ	た	時	の	う	で	外	に	遊	ぶ	た	が
た	り	も	の	外	壊	れ	て	い	た	り	し	て	外	に	遊	ぶ	ま	
せ	ん	で	し	た	で	も	今	は	平	和	で	天	台	に	遊	ぶ	こ	
と	外	に	ま	し	た													

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 五十嵐 幸太 年齢 14 歳 職業・学校名 矢吹町立矢吹中学校

僕は、小学四年生の3月11日に東日本大震災を経験しました。帰りの学活をしているときに揺れを感じ、この日もいつも通り、すぐに抑まるだろうと思い、ていました。ところが揺れは抑まるどころかどんどん強くなり放送の指示で校庭に避難しました。

校庭はコンクリートは盛り上がり、プールの水は揺れてこぼれていました。テレビでは沿岸部は津波の被害を受け、たくさんの方が亡くなり、たくさんの方が行方不明だと報道されていきました。とても悲しいなと感じました。また原発事故により、外での活動が規制されたりもしました。

僕は、この大震災を経験したことで、命の尊さ、大震災の恐さなどを学びました。しかし二次災害を未然に防ぐ事はできると思いません。なので東日本大震災を教訓に、これから起こりうる震災による犠牲者を減らせたらいなと思います。

氏名 加藤 謙貴 年齢 14 歳 職業・学校名 矢吹中学校

僕は、震災が起こった日、小学6年生でした。その時は、教室で帰りの会をしていました。帰りの会の途中に東日本大震災が起きました。まるで大地がおこっているかのようでした。先生の指示にしたがって校庭に避難し、もうと学校を出た時に、校庭を見てみると、言葉が出ないほどでした。プールの水が揺られ、中の水が川のように校庭を流れていました。全員が無事に避難した後も揺れは続いていました。揺れもおさまってきた頃は生徒の親がむかいに来てくれました。自分の親もむかいに来てくれました。東日本大震災を体験して、思ったことは、避難訓練をしていて良かったと思いました。していなかったら、パニックを起こして上手く避難することができなかつたと思うからです。今まで避難訓練はただやっていたことが震災を通して変わりました。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

2011年3月11日、12時48分、大きな大きな地震が発生した。東日本大震災である。その時、僕は小学3年生、すごく恐しい体験をしました。長い月日が流れましたが、僕はあの時の記憶は忘れません。

それから、月日は流れて2016年、食はまだ完全に直っていない市、街、村は、あります。僕は、完全に直っていない市町村が、完全に直すことを願っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鈴木 流星 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中学校 学生

平成二十三年三月十一日金曜日忘れもしない  
 出来事がありました。そうそれは、東日本大  
 震災です。地震による影響で津波が発生し人  
 が数えきれないほど亡くなりました。またも  
 う一つ津波の発生で福島第一原子力発電所に  
 事故がおきました。原子力発電所が事故でも  
 たらした影響は大きく膨大なものでした。ど  
 うかが少しずつですが復興していきました。今  
 もまだ復興はつづいていきますが、少しづつ一  
 歩一歩復興していきます。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 金澤知弥

年齢 14歳

職業

学校名 矢吹中学校

僕は、2011年は3年生の時でした。新しいクラスになって毎日楽しく過ごしていました。でも、あの3月11日、僕は冬休みに入るワクワクを思い出していました。そして帰りの会の時でした。いきなり上空の地面が水たまりに大きくなりました。東日本大震災です。僕は大きくおどろいて、机の下にかくれました。そして少しして少しの水がおさま、たのび校庭へ行きました。でもまだ水はおさまりませんでした。僕はこもか、たては。今でも思いだすたびに、心がいちみみます。僕はこの体験をしたからこそ、心が強くなったとい。でも水がこぼれはあっても。でも水が4年たつた今、またい震災がくるかわかりませんが、僕がけはありません。一人一人が心を一つにして、こもからも、震災に負ける事なく、復興したいと思えます！。

氏名 長尾 凱 年齢 14 歳 職業・学校名 矢吹中学校

僕が東日本大震災を体験した事は、産まれて初めての大きな地震に恐怖を感じた事です。  
 東日本大震災当日は、よくよく地震はあつたのですが徐々に揺れが大きくなっていき二時四十六分の地震では、もう震度五強〜震度六になりもう周りに被害が酷く、泣く声も聞こえました。ものすごく怖かったです。  
 僕の家は、蛍光灯が落ちて、粉々に割れてしまつたり水槽の水が大半こぼれて床がゴシゴシ音になり大変でした。  
 今後は、災害などがあつてもいいの下着の箱のため準備したいと思ひます。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」藤草田紙

## 匿名希望

僕が東日本大震災を体験したのは、忘れも  
 しない小学3年生の時でした。帰りの会を  
 3年3組でかつ、この時です。最初は弱いゆ  
 りでした。その後少しづつ揺れが大きくなっ  
 ていき先生が机の下に隠れてと大声で伝えま  
 した。その5分後に放送で教頭先生が校庭に  
 避難を呼びかけました。あつりは一瞬の出来  
 事すぎて僕はどー動いていいかわからず、机  
 の中にいたままでした。しかし、揺れてくる  
 地面をみてこのままでは命が危ないと思いま  
 した。そのあとすぐに、先生が僕に呼びかけ  
 てくれて、動きだすことができました。  
 コンクリートが割れ、プールがあふれた  
 くさんの人々の命をうば、た東日本大震災。  
 この痛みを忘れず、僕達はこれからをすこ  
 りていきます。

「東口太太雲糸の体験記と復興への想い」麻葉用紙

## 匿名希望

三月十一日、日常通りに家に帰る用意をして  
 していました。そして急に大きな地震におそわ  
 れました。周りの家や、電柱が大きく震れて  
 いました。所々家のかもらが落ちたり、マニ  
 ホールがむき出しになり大変なじよろきよう  
 でした。これより大変なことは、原発事故が  
 す。放射線が福島全体に広がってしまい、農  
 作物や観光に大きなえいきょうがでてしま  
 いました。将来的には田んぼが広がっています  
 が、地震でパイプラインがこわれ、田んぼに  
 水がひけたりなり、荒れた田んぼが広がって  
 いました。ねんで米の値段も高かったて思  
 います。

今後、原発からでた放射線濃度が低くなり  
 災害前の福島に戻っていき、てくあるていいと  
 思っています。

匿名希望

東日本大震災を囁りの途の途中で、うでした  
その時に急に、よ、い地震におおられました。  
その後、校庭に逃げた。-十イタ-の近この  
このホールから水が出ていました。それから  
親を体育館であって、いまして。家に帰ってか  
テレビをみんな地震の情報がどの番組しか  
やっていませんでした。だから、東日本大震  
災は強い地震だったとゆうことがわかりまし  
た。また、東北沿岸部では、何んかの津波が  
来るとゆうことがわかりました。その後、時  
間がたつてからテレビを見た。津波すご大き  
いのだと思えました。また、福島原子力発電  
所が爆発して放射線が出て、い、とゆうことか  
わかった。そして、福島原子力発電所や大熊  
町などにまよかをうけてから、い、なき、行け  
なくなつた。た、ら、悲、そう、を、思、た。そして、  
放射線は危ない、とゆうことがわかった。

## 匿名希望

僕が、東日本大震災を体験したのは、小三  
 の春が来る時期でした。帰りの学活、一日の  
 終わりの言葉になろうとした時、その地震が  
 来ました。机は大きく振れ窓ガラスは割れ、  
 ふざけている生徒もいました。恐怖におび  
 えていた生徒もいました。学校から非難しそ  
 のまま家に帰ると、町は、いままで見えていた  
 町ではな、いと思、てしま、うほど道路などもす  
 でか、たです。テレビをつければどの番組を  
 つけてもニ、ースばかり、そしてそのニ、ー  
 スの話題は先ほどおこ、た地震ばかりでした。  
 みな水などに困りましたが、地域の人の支え  
 などがあ、りあ、り僕は困るようなことはあり  
 ませんでした。あの地震からもう五年がたと  
 うとしていきます。ですがまだ荒れ果てた町な  
 どそのままの所があります。そのような場所  
 の修理とまた地震が来た時の行動また放射線  
 でまた、かわ、ぎや環境などを考えて、原子力発  
 電所はもう再起動しなく、て、い、い、と思、います。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

あれは、4年前の時、僕は3年生でした。  
 クラスでは、帰りの学活中でした。学活が終  
 わる時に、小さな震災が来ました。でも、そ  
 れは、すぐやおだろうと思いました。けれど  
 震災はやみませんとした。震災は強くなり続  
 け地割れ・液状化現象などがテレビで放送さ  
 れたりしました。学校も地割れが起き怖い思い  
 をしました。

地割れ・液状化現象、地盤沈下や津波が、  
 多くの被害が出ました。東日本大震災を教訓  
 にいろいろな対策を復興かして欲しいです。

## 匿名希望

僕は当時小学三年生で、普段通りに帰りの学活を聞いていました。もうすぐ春休みで浮かれていたときに、それは起きました。最初大きなゆれがきて僕は一瞬地震とは思いませんでした。しかし先生が机の下にもぐる指示を出したので、この大きなゆれは地震だと確信しました。教室内では、ガラスが割れたりなどの被害があり、ようやくゆれがおさまりに外にでたときはおどろきました。このクリートの地面が割れるな普段見なれぬ風景がありました。祖父のむかえがきて、その時、うれしく思ったことを覚えています。この震災でさまざまな災害がおき、そしてたくさんの方々が不明者かでいるのを知りました。こんな状況でもそこから年々復興されたいが震災前の状況になっしてほしいと思ってきました。